

令和5年度

堀江南小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 規律ある学習活動の展開と保護者と連携した家庭学習の充実
- ICTを効果的に活用し、さらなる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員
 校長:坂東 正美 教頭:多喜田 郁生
 美保 美津江 教務:山本 陽久 人権教育主事:大道 真紀
 特別支援教育コーディネーター:竹野 啓治
 研修主任:山本 陽久 養護教諭:大北 さおり

校長

坂東 正美

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

校内研修における教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|--|---|---|---|---|---|
| ○各学年で学習する漢字の読み書きや計算等は、ある程度身に付いている児童が多い。 ●文章を読み取ったり、自分の思いや考えを書いたりすることに課題がある。 | ・各学年で学習する漢字・計算を十分身に付けている。 ・自分の思いや考えの組み立てを意識して文に書き表すことができる。 | ①学習規律を徹底するとともに、「わかる」「楽しい」「つながる」授業を行う。 ②基礎学力の定着を目的とした朝の活動「ぐんぐんタイム」を実施する。 ③複式学級の利点を生かす。自主的に学習できるような課題を用意したり、学年の手本を示したりする。 | ①授業ごとの振り返りを活用し、学力の定着の可視化を図る。 ②既習の漢字を書く場面をできるだけ多く設定する。 ③空き時間に教員相互に短時間の授業見学を行い、授業力の向上を図る。 | ・振り返りシート等を活用して児童の学力の定着を記録することができた。 ・漢字や計算の場面は多く設定できた。 ・行事後の作文活動など、「書く」活動を工夫し実践できた。 ・異学年で、互いに学び合う機会をもつことができた。 | 全ての授業で振り返りの時間を設け、授業ごとの振り返りをさらに充実させ、次時につながるようにする。ICT機器を活用した基礎基本の学力の定着の場面を多く設定する。 |

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|--|--|--|---|---|--|
| ○体験的活動を通して、グループで調べたり、まとめたりすることが好きな児童が多い。 ●身に付けた知識・技能を活用して、考えをまとめたり、伝えたりする力に課題がある。 | ・身に付けている知識・技能を活用して考えることができる。 ・自分の考えをまとめたり、伝えたりすることができる。 ・読書活動を通して、豊かな感性、表現力を身に付けている。 | ①これまでの実践とICTの最適な組み合わせを実現する授業を行う。 ②児童朝会やなかよし班活動で培った表現力を各教科において発揮する場面をできるだけ多く設定する。 ③読書の時間を確保し、児童が読書に興味をもてるように工夫する。 | ①ICTを活用した授業を多く行う。 ②授業中、友だちの前で発表する機会を多く設ける。 ③図書館サポーターと連携し、図書室や学級文庫の環境を整える。 | ・どの教科でもICTを活用した授業実践を行うことができた。 ・各授業において、児童が自ら意見を相手に伝える活動を多く設定できたので、児童の表現力の向上が見られた。 ・一斉読書や読み聞かせを行うなど、読書活動の機会を設定できた。 | ICT機器のさらなる活用を進め、児童一人一人に応じたきめ細かい授業を行う。身に付けた知識をつなぎ、より深い学びが実現できるよう、各教科の学びの成果を体験的な活動に生かす機会を多く設定する。読書の興味・関心を高める取組を実践する。 |

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|---|--|---|--|--|---|
| ○与えられた課題については、真面目に取り組むことができる。 ●自分から進んで学習や活動に取り組むことや、不得意な学習に計画的に取り組むことに課題がある。 | ・自分から進んで学習に取り組む、粘り強くやり抜くことができる。 ・自分の学力に応じた家庭学習や自主学習を主体的に取り組むことができる。 | ①授業におけるルール等を適切に設け、規律ある学習活動を行う。 ②保護者と連携し、子どもたちが主体的に取り組む家庭学習の充実を行う。 ③個に応じた学習活動ができるよう、ICTを活用した授業を実践する。 | ①学習規律のさらなる定着を図る。 ②自主学習を行い児童が自らの課題を確認できるようにする。 ③ICTを効果的に使用できるよう授業内容を工夫する。 | ・聞き方や話し方など「望ましい行動」のモデルを示し、支援することで主体性を育てることができた。 ・児童が課題を考え、自主学習に取り組むことができるよう支援した。 ・児童個々の課題に応じて、ICTを活用したドリル学習や調べ学習などの機会を授業の中で設定することができた。 | 自らの課題に応じて、粘り強く学習に取り組むことができるように指導する。児童がICT機器を主体的に活用し、自らの学習を進めることができる授業改善を推進する。 |

令和5年度 学力向上ロードマップ



